



## 新たな時代「令和」を迎えて

同窓会会長 網代潤一 21期生（昭和44年卒）

約30年続いた平成に代わり、本年5月から「令和」の時代が始まりました。平成生まれの30歳以下の若い世代はもちろん、昭和生まれの私も、天皇の生前退位による新元号への移行を初めて経験することになりました。

翻って生前退位を歴史的にみると、天皇・上皇の称号が用いられてから初めの西暦697年（奈良時代）から直前の1817年（江戸時代）までに、過去59人の天皇が生前退位している事実があるとのことです。

さて、顧みますと同窓会は昭和25年の創設から今年で69年目を迎えます。この歴史の中で平成18年「開かれた同窓会」を目標に掲げ、新生実践学園同窓会として発足して以来様々な改革に努め、同窓会組織の存在意義が顕在化してまいりました。この改革以来昨年で満10年が経過し、次なるステップの満20年に向け、母校の発展に寄与すべく、同窓会役員一同全員で鋭意活動中であります。

しかしながら、この改革過程で新たな問題点も顕在化しております。この問題点の改善計画として、第一に同総会運営の中核となる運営委員の不足であり、同窓会会則の改正による運営委員の計画的な拡充を推進します。第二に、同窓会運営の実務を担う運営役員の円滑な世代交代に向けた組織的な対応の実現を目指します。第三に、同窓会運営に係る運営費の充実を目的に、会員各位からの同窓会賛助金（1口千円から）の募集を引き続き行います。

数年先に学園では、大学入試制度の改革・学習指導要領の改定が間近に迫っており、これらの課題をクリアしつつ学園の経営基盤を強固にしたうえで、進学校としてのレベルアップを目指します。同窓会は学園と連携のもとに会員相互の親睦と向上を図り、母校の発展に寄与していく方針でありますので、会員の皆様には今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。